

○鳩山体制で民主党の新しい船出

民主党は鳩山体制が確立しました。岡田さんが幹事長を受けてくれたことはもちろん、小沢さんも引き続き選挙の陣頭指揮をとっていく態勢ができたこともよかったと思います。

私も引き続き「次の内閣」の財務大臣を務めていくことになりました。岡田さんが民主党政策の財源にこだわっていた気持ちも分かるので、今より掘り下げて、税金の無駄遣いとその生きた使い方を説明して、国民に対して信頼をもって理解してもらえるように頑張ろうと思っています。

選挙の時期は、麻生さんしか分かりませんが、この調子では8月以降となる雲行きです。日々、常在戦場。どうかよろしくお願いします。

○「次の大臣」ドル相場を動かす？

私の一言で、アメリカのニューヨーク市場のドルが下がってしまったと、為替市場の関係者が騒いでいたようです。イギリスのBBC放送のウェブ上に、「日本は、ドル建て国債を買わない。と民主党「次の内閣」財務大臣の中川が発言」と、センセーショナルな見出しが躍ったからです。

その一月ほど前に、確かにBBCが取材に来て、アメリカの大幅な財政出動がこれからのドルの基盤を不安定なものにするのではないかという観点から、特集を組むのだと言っていました。その時点の私の問題提起は、「アメリカの国債引き受けに日本も協力することになるのだろうが、ドル建ての国債を無条件に引き受け続けるのは問題だ。日本の為替差損は、すでに膨大な額になっている。アメリカ国債をドル建てではなく、円建て(サムライ債)で発行してはどうかとアメリカ政府に提案するののも一つの新しい手段だと思う。」このように言いました。これが、一月後の、微妙なタイミングで、「ドル建て国債は買わないだろう。」と報じられました。その陰にはマーケットに対するもっと違った思惑が働いていたのではないかと、市場関係者が説明してくれました。ただ、すでにドル建てで米国債を保有している金融関係者や企業経営者から、自らが保有している米国債の大幅な下落を不安視したご意見をいただきました。円建てへの切り替えは、BBCの放送にあるように、全体の状況を見ながら慎重に進めることとなります。

私の主張は、これまで予算委員会や財務金融委員会で、繰り返し総理や与謝野大臣に対して提起してきたのですが、日本のマスコミには黙殺されてきました。今回、日本の民主党「次の財務大臣」としての発言が、イギリスで取り上げられ、世界を駆け巡ると、日本のマスコミがあわてて取材に来ると言うパターン。やるせない気持ちです。

○財源論：民主は税の無駄遣い根絶、自民は国債発行で借金潰け

最近、与謝野大臣は、口を開くと、民主党の財源論は絵に描いた餅だと批判します。私は、自民党の財源こそ無責任きまると言い返しています。15兆円の補正予算は全て借金で賄う。これまでの膨大な国の借金とあわせて、「金がないから借金が増えても仕方ない。」と言った説明がまかり通ってきた自民党の財源論は、亡国の財源論です。「民主党は借金する前に無駄な税金の使い方を徹底的に検証しよう。」一円でも、税金の生きた使い方を実現すること。そのためには予算を根本的に組み替えることだと、私は主張しています。

予算の使い方を変えるための一つの法案が、今、私の手元にあります。民主党が議員立法で提出して参議院を通過した租税特別法の「透明化」法案です。研究開発をしたり、省エネを進めたり、環境に適した投資をするなど、政府の奨励する方向で企業が資金を使えば、その分特別に減税しようと言う仕組みが建前。実際は、関係団体が自民税調と掛け合って選挙の応援見返りで減税するということになっているのではと批判のあった制度を、透明にしようと言う法案です。特定の、しかも儲かっている企業に補助金を出すのと同じ理屈だから、どの企業にどれだけの減税が行われているか情報の開示を税務当局に義務付けています。表に出れば、4兆円くらいは必要のない減税だということがはっきりして、制度を廃止することで税金の節約ができると考えています。自民党の反対を押し切って、法案を衆議院でも通したいと思っています。

中川 正春